

経営比較分析表

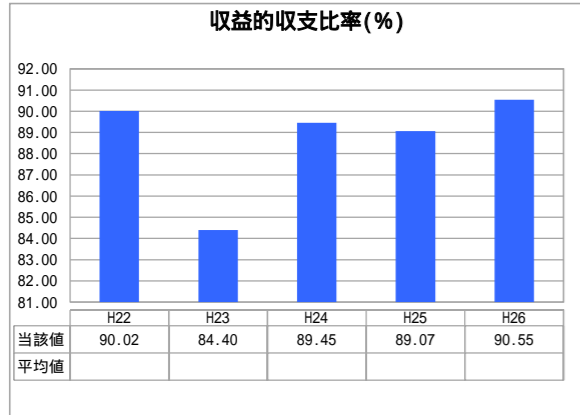
埼玉県 熊谷市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法非適用	下水道事業	公共下水道	Bd1
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)
-	該当数値なし	43.41	80.20

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
201,627	159.82	1,261.59
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
87,189	17.63	4,945.49

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
【】 平成26年度全国平均

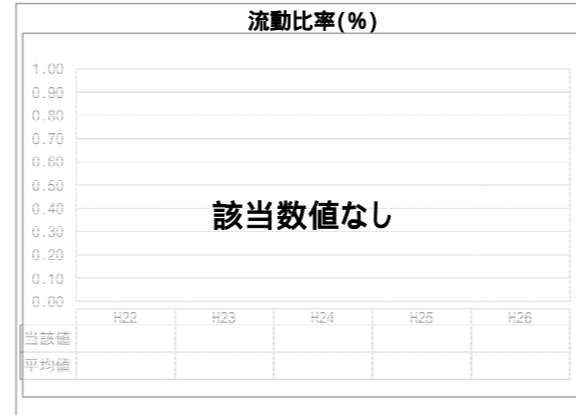
1. 経営の健全性・効率性



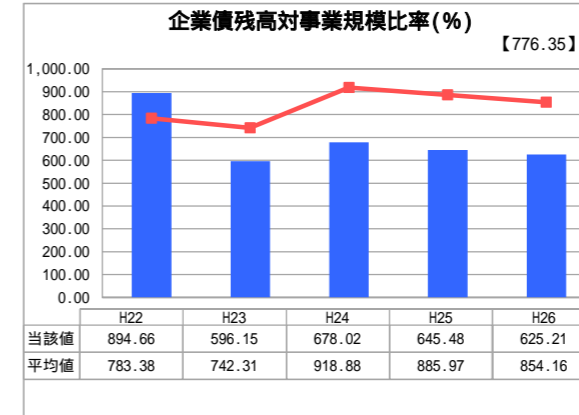
「単年度の収支」



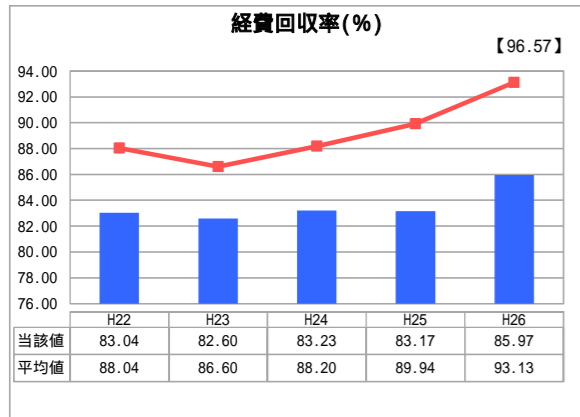
「累積欠損」



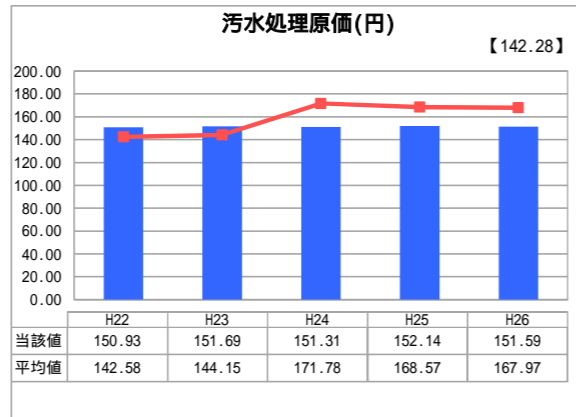
「支払能力」



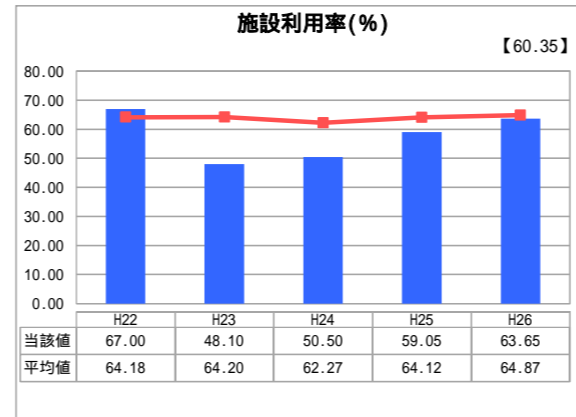
「債務残高」



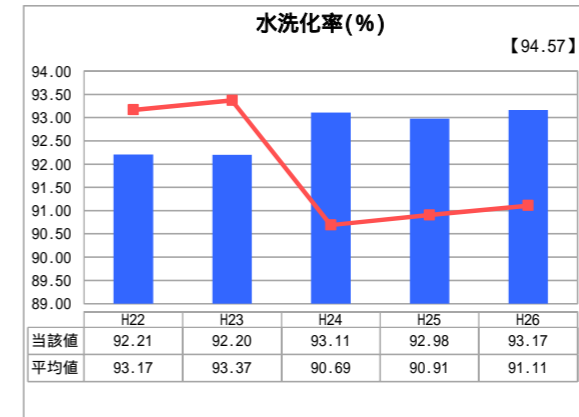
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

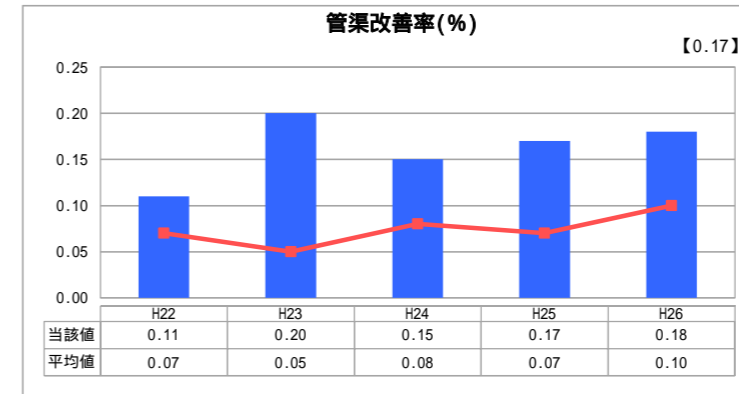
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

料金収入や、一般会計からの繰入金等の総収益で、総費用に地方債償還金を加えた費用をどの程度賄えているかを表す収益的収支比率は、ここ3年間は90%前後で推移している。水洗化率は、ここ3年間は類似団体平均を上回っているが、経費回収率は類似団体平均を下回っており、今後、適正な使用料収入の確保が必要となると考えられる。

施設利用率は、ここ4年間は類似団体平均を下回っており、現状では、施設が適切な水準の料金収入に結びついていないため、施設効率の改善や今後の投資のあり方を検討する必要があると考えられる。

企業債残高対事業規模比率は、ここ4年間は類似団体平均を下回っており、類似団体と比べて、将来世代に対する負担が低くなっていると考えられる。今後も必要な事業を取捨選択し地方債の発行の抑制に努める。

汚水処理原価は、ここ3年間は類似団体平均を下回っており、類似団体と比べて、効率的な処理ができていると考えられる。

2. 老朽化の状況について

管渠改善率は、ここ5年間類似団体平均を上回っている。長寿命化に取り組んでおり、管渠の更新等が適切に進められていると考えられる。今後も国の制度を活用し施設の更新、維持管理を効率的に進めることに努める。

全体総括

上記1、2を通して、企業債残高対事業規模比率や汚水処理原価などの類似団体よりも良好な値になっているものは、更に効率性を高めることを目指す。また、類似団体よりも悪化した値になっているものは、経営の改善等を行って、まずは、類似団体の平均値に近づくことを目指す。

法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。
平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。